

【近況活動報告】

なかなかホームページを更新できず心苦しいばかり。選手には日頃から、野球を言い訳にしない、勉強を言い訳にしない、野球中心の高校野球生活の中で、野球と勉強との両立を成し遂げよ、なんて言っておきながら、なかなかホームページを更新できずにいる。監督は自分の仕事を言い訳にしない、忙しいなんて言い訳している場合ではない。

と反省しつつ、以下、ここ最近の活動報告です。

<運営体制の一部変更>

2010年より大学生コーチとして献身的にチームを支えてくれた林コーチが、2015年3月をもって引退、4月より社会人として新たな1歩を踏み出しました。3月の春季一次予選、林コーチの最後の試合は、同期の瀬尾、吾妻が花束を持って駆けつけ、3月に高等科を卒業した野球部OBも集まり、最後は現役部員による胴上げで送り出しました。林コーチ、改めて4年間お疲れ様。



また、顧問を務めていた井上先生も3月を持ってご退職。母校の早稲田実業高等学校にご栄転なさいました。ソフトボール経験者であったことから、練習試合ではベンチの中でスコアを書くのを手伝ってくれました。字がきれいで読みやすいスコアブックだったなあ（笑）。いつか早稲田実業と練習試合を組んでくれますように。新天地での益々のご活躍を祈念いたします。

林コーチの引退により、大学生コーチ不在という状況をどうしたものかと悩んでおりましたが、この春、学習院大学に進学した高等科野球部OBの網干雄樹くんがコーチに立候補してくれました。私の練習参加が、平日はどうしても17時以降になってしまうので、この立候補はとてもありがたいこと。彼もまた高校野球のスペシャリストであり、努力のスペシャリスト。高校野球を引退した際に私に提出してきた彼の最後の野球ノートには、「自分は出来ないことが多く努力が実らないこともあったが、今考えてみれば無駄なことは一つもなかった」、「悔しいけれど悔いはない。そう思

える高校野球をやってきて本当に良かった」と書いてあったことがとても印象に残っている。気遣い・心配りができ、優しさ・思いやりを持ったOBがコーチに就任してくれました。

また、野球部父母のご紹介により、目白整形外科内科の大野先生が、4月からトレーナーとしてチームスタッフに加わってくれました。週に一度、選手のメディカルチェックのために練習に参加していただき、怪我人のサポート、リハビリのアドバイスなどを行ってくれます。学校の近所の整形外科でリハビリができてしまう、強豪校のようなサポート体制が整ってきました。

さらには、大学野球部の田中監督に、将来教員を志望している大学野球部の選手がいるならば紹介いただけないか、高等科の練習に参加し、アドバイス・指導してもらえるような体制を構築できないか相談したところ、4名の選手がコーチとしてお手伝いしてくれることになりました。どの選手も名の知れた高校の出身者ばかり。強豪校のノウハウ、練習での心構え、ゲームにおけるメンタリティなど、新しい風を高等科の練習に吹き込んでくれることを期待したいと思います。

<オープン戦用ユニホーム一新>

6月の附属戦・7月の夏の大会に向け、オープン戦用ユニホームをモデルチェンジしました。これまでの紺ベースから、縁起（白星？）を担いで白ベースに。気持ちも新たに、選手には好評のようで、新デザインで挑んだ最初の練習試合で幸先良く勝利することができました。



<卒業生情報>

大学野球界で活躍するOBの近況も報告しておきます。学習院大学硬式野球部の安西、古川の2名は、この春のリーグ戦から主力として活躍しています。筑波大学硬式野球部の久田は、2軍戦の主力捕手として頑張っているようで、慶應義塾大学硬式野球部の松田は、俊足を評価され捕手から外野手にコンバートされた模様、外野手として神宮の晴れ舞台を目指しています。

また、長年、中等科野球部のコーチを務めていた秀島さん（2007年度卒）は、この6月から

インドへ転勤とのこと。転勤前に高等科野球部に差し入れをたくさん持ってきてくれ、教え子たちを激励してくれました。夏の大会を勝ち上がり、遠くインドへ吉報を届けることを約束しました。

<附属戦・夏の大会に向けて>

今年の新入部員は4名。3年生6名、2年生9名、1年生4名、合わせて19名と一時期よりも部員数は減ってしまいましたが、その分一人一人手厚く指導できると前向きに捉えています。

3年生はここからがラストスパート。春の大会以降、3年ぶりの関西遠征から再スタートし、全体練習、自主練習、練習試合などで一人一人の「個」の力は着実に伸びてきている。ここからは、個の強さをいかにしてチームの強さに結び付けていくかを最大のテーマに、選手には更なる自立・成長を求めていきたい。一人一人が自分の結果ばかりに固執してはチームはまとまらない。個の成長だけでは夏の大会は勝ち上がれない。「個」から「団結」へ。最後の夏に勝ち上がる粘り強いチーム力を磨いていきたい。

以 上